



社会福祉法人鶴風会

後援会ニュース

No.13(昭和57年)
社会福祉法人鶴風会
後援会

東京都武蔵村山市学園4-10-1
☎0425-61-2521
事務所・東京都中野区
本町2-15-13 ☎03-372-7650

後援会ニュース13号をお届けいたします。

今号は、新しく園長にお迎えした棚瀬延先生の御挨拶、そして障害児福祉と共に今後の大きな課題である老人福祉について編集いたしました。

御挨拶

みどり愛育園園長
東京小児療育病院院長代行

棚瀬 延

東京小児療育病院は、帝国女子医専第一回生、故龍知恵子先生を頭に結集された同窓の諸先生が、

労を惜まず作りあげられた幼少

脳性マヒ児の為の専門施設で、昭和三十九年四月、東京の郊外村山

に八八床で発足いたしました。当時全国より集まってくる患者の必要に迫られ、開設の年の秋には一

〇八床、四十二年には一六八床と増

床し、四十五年はこの肢体不自由

児施設から五十床が重症心身障害

児施設「みどり愛育園」として認

可変更されました。創立より十八

年余、脳性マヒの早期発見・早期

療育をモットーに営々と現在の諸

施設を築き上げて来られた藤永院

長と、物心両面で之を支えている

理事会及び同窓生に敬意を惜し

ません。

本年三月、藤永先生の御退職に

より、みどり愛育園園長兼東京小

児療育病院院長代行として参りま

した。開院当時より六年余、常勤

職員として医局におりました。

私は福祉施設に縁がある様で、

戦後間もなく横浜山手の聖母愛児

園(殆どが米軍兵士との混血児で

捨児)次いで乳幼児診療福祉施設

次いで母校の衛生学教室、東京小

児療育病院が出来てここに数年、そ

して鎌倉七里が浜に近い重症心身

障害児施設「小さき花の園」に九

年余おりました、本年ここに参り

ました。以前おりました時より、

職員も設備も格段に充実し、訓練

科・聴言科・育務科等、夫々専門

分野を担当し、病棟の看護者と協

力して早期療育の成果をあげてお

ります。みどり愛育園も母体が肢

体不自由児施設なので、積極的

外向的療育がそのまま保たれてい

て、重症心身障害児施設にあり勝

ちな沈滞した空気がありません。

この方針は漸次あちこちの施設

に採り上げられて来ております。

「この子等を世の光に」と仰言つ

た障害児教育の先覚者、故糸賀先

生の様な広い心を持ちたいと願

い、周囲の方々と協力して、こ

の子供達の一生を見守って行きた

いと考えております。

この子供達に関心をお寄せくだ

さる皆々様の御協力に敬意と感謝

をこめて、着任の御挨拶を申し上げ

ます。

ます。



子供と遊ぶ園長

故 龍 知恵子先生に捧ぐ

社会福祉法人 鶴風会

理事長 倉島 撰子

この六月七日正午過ぎ電話で龍知恵子先生の御逝去を知らされ、とるものもとりあえず御自宅へ急行しました。枕花の置かれた和室で静かに横たわっていられる先生と悲しい対面をいたしました。平素と変らぬお美しいお顔で安らかに眠っていらつしやるようでした。医師である御子息様・若奥様・御孫様と御家族の行届かれた御看護で最後まで尊厳を保たれた大往生でございました。

思いおこせば今から二十年前に先生の御発案で医師として何か社会に役立つ仕事をと厚生省にも相談され、当時国でも手をつけてなかった脳性マヒ児の早期発見・早期療育をと医師としての情熱が社会福祉法人鶴風会設立となりました。先生は初代理事長として、建物建設の為募金活動等、昼夜を分たぬ御活躍でただもう目を見張るばかりでございました。幾多の困難に打克ちつつ昭和三十九年四月秩父宮妃殿下の御出席を賜って開院式を迎えることが出来ました。日本女医会会長・財団法人脳性マヒ児を守る会理事長と先生の才

能と手腕は何れにも大きな足跡を残されましたが、一番心をくだかれた肢体不自由児の為にこの村山に土地を求め病院を造られた事そして今、二十年前に脳性マヒ児への早期発見・早期療育を提唱した先生の御意見が昭和五十四年より厚生省の行政の要となりました。更に特筆すべき事は先生が理事長をされている財団法人脳性マヒ児を守る会が障害者元年にあたる昨年、保健文化賞を受けた事でございます。施設を造ってから更に

脳性マヒ児への正しい理解と知識を一般の人へ広めようとこの会をつくられた先生の功績が評価され嬉しいことでございました。当日受賞者を代表して御挨拶に壇上に立たれた先生の胸中是如何ばかりでございました。

今先生の御志をついで先生の子供・又孫のような若い後輩がこの仕事に参加し、より内容の向上に情熱を燃やしております。村山の一角を照らした愛の灯は永久に消えることなく受けつがれてまいります。

先生御見守りください。 合掌

独り暮らし老人と福祉

老人福祉相談員 北山 容子

昭和五十七年の年が明けて、未だ松飾りもとれない四日、厚生省は恒例の厚生行政基礎調査の概況を発表しました。新聞は「激増する独り暮らし」の見出しで家族が分裂化し、老人と若者の独り暮らしが都会では増える一方で全体の三割に近づいている現状を訴えています。

昭和对する理解もあつて二つの事業が相次いで生まれました。そのひとつは区が社会福祉協議会へ委託して行っている独り暮らし老人巡回訪問であり、もうひとつは翌年四十八年に生活館で発足した独り暮らし老人への福祉電話訪問であります。

全国の独り暮らし老人九十一万人のうち、女性が七十二万人で、約八割を占めていると言う事実は男社会の裏方として社会をささえて来た女性が、きびしい老後の中で生きて行かなければならない事を示していると言えましよう。独り暮らし老人に対するデータ及び評論は最近になって新聞、雑誌に登場する様になりましたが、私は行政の中で凡そ十年近くこの問題にかかわって来ました。昭和四十七年頃と言えば、はやひと昔になりますが東京では美濃部都知事のかげ声の許に福祉行政にスポットがあてられて北欧に追いつきかねない年でありました。副都心の高層ビルを抱えている新宿区においても区長の老人福祉

とめてゆくのは中々、容易な事ではありません。

若者の独り暮らしが自立の第一歩として自然な印象を与えるのに対し老人の独り暮らしが最近特に問題になるのは何故でしょうか。それは時折、新聞記事になる孤独死から老人の最も弱い姿として社会問題となつてきています。実際にも前に述べた行政の事業の中で孤独死寸前を病院に手配したり、倒れた所に行き合せてケアスがあるのです。

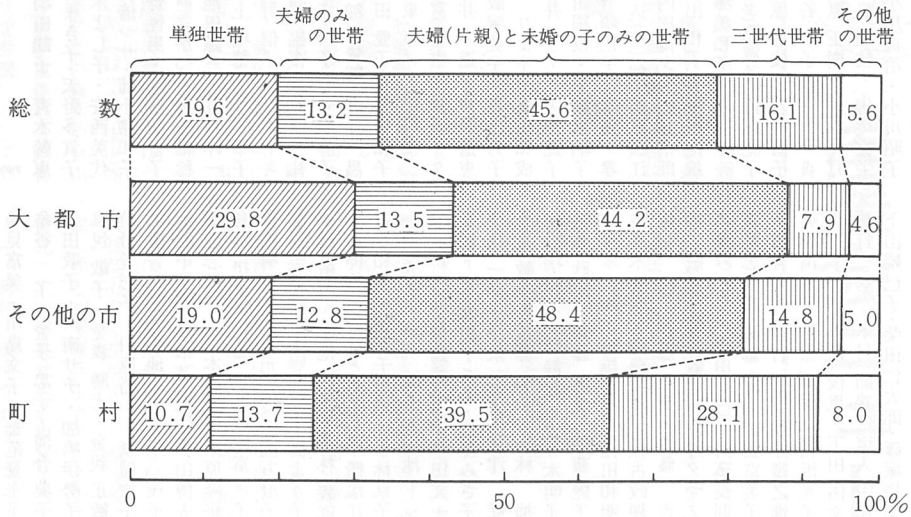
事故の子防の面から行政や老人の住んでいる近隣、離れて住む肉親が配慮した事が老人に安心感を与え、喜んで貰えるかと言うと必ずしもそうではありません。身体が弱つて来ても独り暮らしを続ける老人は同居老人には見られない芯の強さを持っていて、人に迷惑をかけまいとする心が頑なに援助の手を拒否してしまします。

ここで老人の心に対する思いやりと理解が問題解決のポイントになってきます。老人を理解するには老年期を老化の進度で三つの段階に分けて、体と心と社会への適応性を考えてみると良いと思えます。老化現象は個人差がはげしく、暦の年齢と健康度が個人の生活を決めてゆきます。

老年初期を定年退職後まだ壮年期の元気がみられる頃とすると、

社会に対する関心も強く、行動も自発的で人とのつき合いも順調な

図1 市郡別にみた世帯構造別世帯数の構成割合（昭和56年・単位％）



人が多い。七十五才位迄は老人クラブの核となって活躍をしたり、仲間と旅行をしたり、遠方の友人との交流も盛んで誰にも拘束されない自由な生活を楽しんでいる人もかなりあります。今が一番幸せですと、若い頃の苦労話を聞かせてくれます。そのうちに、ふとしたきっかけから自分の体に自信を失くして行きます。配偶者との死別、仲のよい友人が寝たきりになったり、自分に慢性病が出たり、転んで骨を折ったりして家の中に居る時間が多くなってきました。老人は何かの病気を持っている事が多く、老化現象と重なって持病を道連れに生きて行く感じを受けます。この頃を老年中期とする

とひとり暮らしが負担になって来る頃でもあります。

老人一人の世帯でも生きてゆく為には家をきり廻していかなければなりません。経済、つき合い、健康管理等が次第に行き届かなくなり、精神的には緊張した形で孤独と闘わなくてはなりません。

この時期から後期にかけて、老人は様々な形で救いを求めています。地域の人々とのつながりを求めて宗教団体や政治組織に所属したり、自分のからに閉じこもって猫や小鳥を自分の分身の様に可愛

図2 世帯構造別にみた寝たきり者のいる世帯数

| 世帯構造 | 総数 | |
|------------|--------|----------|
| | 世帯数 | 構成割合 |
| 総数 | 587(千) | 100.0(%) |
| 単独世帯 | 27 | 4.6 |
| 夫婦のみの世帯 | 78 | 13.3 |
| 夫婦と未婚の子の世帯 | 84 | 14.3 |
| 片親と未婚の子の世帯 | 22 | 3.7 |
| 三世代世帯 | 281 | 47.9 |
| その他の世帯 | 96 | 16.4 |

がたりします。栄養状態も悪く、病気で入院する時点で栄養失調を伴って、そのまま寝たきりになるケースも多いのです。

しかし、客観的に見てひどい生活でも病院や老人ホームへ自分から入る例は少く、救急の形で入院したり、周囲の説得でやむなく決

行政に結びつく事により、在宅のまま暮らす態勢が整います。地域の人々とは老人との交流の中で理解を深め、ますます増えつつあるひとり暮らし老人の在り方を積極的に探ってゆく時期に来ているのではないのでしょうか。

める様です。辛棒する強さはあっても、決断して道を開く力がないので身寄りのないひとり暮らし老人の場合には事故を招きやすい状態におちいつてしまっています。

老年後期のひとり暮らし老人をとりまく地域の人々との関係は口で言う程、やさしい事ではありません。長い間の人間関係が影響してくる点では老人自身の生き方も問われる事になります。

地域のボランティアを受け入れる事で老人の生活の不足を補い、さら

後援会寄附者御芳名

バザール寄附者をふくむ
五六・一〇一五七・七

阿曾滋子・赤羽田鶴子・青木幹恵
浅利重子・天野まさ子・天野多賀子
青木ゆう・青木よし子・安西美代
相沢ミツエ・安倍マサ・姉小路和子
阿部賢治・天野悦男・厚味かよ子
朝倉富美子・芦立かつ・青木継稔
石川きみ子・池田謙三・井口洋一
井上照子・井上瑞穂・井上幸子
市川高吉・今野信子・井上トキ
磯村 光・飯国桃夜・伊藤 礼
板倉玉子・稲垣玲子・石川静子
五十嵐いつ子・稲垣賛郎・石井 昌
伊藤徳子・池田愛子・諫山和子
稲葉真理・伊東カメ・伊藤友二
井上裕子・一宮勝也・石川キク
岩崎裕三・出井 道・石原道恵
伊藤梅雨子・飯塚英子・石田秀子
伊藤萬子・乾 りよ子・飯田和成
飯田昭子・石井幸子・上木艶子
白井潔子・浦田崎枝・上高嘉納子
白井重三・内ヶ崎仁子・内田 孝
浦田とめ子・牛込莊一郎・梅原公江
上田富士子・内田博之・白井信郎
内出洋道・内出和子・海野俊雄
梅澤重一・梅澤美和子・潮田 一
上田美知子・海老原淑子・遠藤紀子
荏原光夫・荏原寿枝・大月富子
恩田倫二・大谷明子・及川 貞
小田けい・小原正樹・緒方 月
太田 崇・大脇照枝・小川文栄
小野沢 純・小川再治・小川昭子
小川文字・大嶋 功・大熊 進
大熊はつみ・奥田嘉門・織田秀夫
長田 絢子・大曲治世・沖津くら

大関 忍・小田切弘人・忍足正之
忍足美代子・岡村シマ子・小原該一
沖田 正人・大林幹子・小野丞二
大谷 宏明・柿沼英子・笠原 克
笠井 和・川合朝子・河原 節
勝見富美・川島文字・釜范登志子
龜谷 了・金子忠子・河合典子
神田敬子・川南サチ・加嶋伊勢子
喜野敬志子・金森勝一・金親正敏
狩野登志子・川原久一・嘉屋文子
加藤香代子・菊田裕子・岸 茂子
木村甲子郎・岸本茂次郎・山本博夫
菊池志げ子・岸本篤郎・栗原隆平
倉島撰子・工藤訓正・倉富孝子
栗田菊枝・久木元久枝・国方澄子
熊谷美津子・小出 誠・小松よう子
小林敏博・小池広子・小林義郎
小松伸弥・駒林とめ子・小櫃温江
古賀和子・後藤千恵子・小林京子
小林 秀子・呉 政子・小池トシ
越島新三郎・越島美治代・幸田文一
幸田トミ・幸田トモ子・近藤みさ子
小泉 一介・小泉美子・神津 弘
小泉敏子・後藤広子・小林 神
河野瑞絵・小林静江・佐々木明子
佐藤 欣治・齊藤英子・佐藤艶子
佐々木 綾・猿橋勝子・指田和明
佐々木庄八・齊藤捷夫・佐古政穂
佐倉 博・齊藤三枝・佐藤 香
境 敏秀・佐竹敬一・坂井タマノ
齊藤みどり・澤田克己・齊藤長則
笹尾志ずる・佐藤ユリコ・柴田富美子
下田喜久代・白石 彰・島津幾之進
篠塚清志・正田二寿子・白浜光子
嶋田とら・下田俊胤・下田佑幸
鳴野 栄・下村節義・塩入円祐
下山婦巳子・柴田仁太郎・篠塚裕子
島津和貴男・白橋幸夫・鈴木文字
須藤さみ子・杉本寛子・鈴木まち子
鈴木てる子・鈴木君子・鈴木静子

鈴木淑子・須田経宇・菅 邦夫
須藤 寧子・杉本とし・杉田佳信
菅原 徹・菅井秀子・関 敦子
関根 嘉子・関根幾子・添田百枝
宗 恒雄・田口キヌ・高橋百合子
田鍋庸子・高尾三郎・田中政五郎
高橋里美枝・高垣益子・高木輝雄
高橋三代子・田中信子・高桑明子
高梨 旻・高木松枝・田郷寿正
多田 正子・田崎トシ・田島高子
高井貞子・高橋知愛子・田村奈保美
田中 勲・高槻義夫・高月正宏
辰木寿美・竹内神奈・田宮 親
玉盛やす子・多田 縫・田村晴子
田所美江子・武岡秀子・伊達愛己
伊達陽子・千秋キヨ子・千輪絹子
千秋華子・千鳥チエ子・津金修作
塚本正子・筒井こてふ・塚田成子
土屋満枝・鶴岡康子・塚越京子
月花 亮・出構昭子・手塚まち子
手塚 純子・寺本みや・寺野あき
友田伊佐子・土肥幸枝・外山千枝子
道下富信・徳重隆幸・遠山富美子
富田ウメ・飛谷良子・中里玉子
中島由紀・中館君枝・中村富美代
中野敏江・長野文子・中谷孫一
直井喜美子・中川甲子・成毛孫一
中平 貴子・中川 礼子・中山年子
中山 久子・長浜レイ・中根幸枝
永田保子・中村克彦・中村志津子
中倉千鶴子・中島桂子・中村陽二
鍋島 啓子・中野弘一・永沢康滋
中里恵美子・中野 実・永澤康博
二宮文乃・新美静江・西田文字
西岡 将・垂山まり子・野村たま子
西平守夫・野口登志子・野崎成子
野村章恒・野原 彰・能谷正雄
野沢良美・野沢多都美・野沢典美
野沢和枝・野沢明子・峰須賀ふみ子
馬場ヨシ・蓮沼ゆき・林 堪子

橋本静子・秦 和子・半沢紀子
原村静子・長谷川 淳林 敬一郎
濱田 美・原田品子・馬場健一
原田 孝・橋本フジ子・服部陸子
羽生 章子・林 晴男・原 つぎ
早川浩市・林 栄子・浜 陽子
日野チヨコ・日根野妙子・平沢幸子
平山ゆき・樋口正俊・平岡真理子
平出 光・樋川 歌・藤森市子
深見利子・府川則子・藤岡美津子
古川 明・藤沢唯子・福田ハツエ
別森かね子・柚松 洋・堀内千鶴子
本間義章・本田 哲子・星 英子
保科光平・星野芳江・松岡知恵子
松永健治・松永しげ・俣野昭一
松岡栄子・真木篤子・丸山和子
前田寿馬・増田礼子・牧野忠夫
牧野アツ子・松村あや・松本 理
黛 節子・前田節子・松橋 章
宮崎 房子・三浦真一・宮崎明子
三戸 緑・宮川千鶴子・宮田誠子
三島 祝子・宮崎 信・宮田敬一
溝口美文・宮沢 香・宮下裕江
三橋神酒・水川 安子・水谷さく
宮脇綾子・溝谷弘海・三輪東一郎

箕輪一二三・村上リヨウ・武藤京子
村田ユキ・村松功雄・村田憲三
村上久仁子・村田達江・武者増穂
本橋 猛・守屋孝子・百瀬貞子
森川幸江・森田てい・守田文彦
森 勉・森 紘子・森神千代
茂手木三男・山下文字・山口辰雄
柳谷 紀子・山口銀子・山田純子
薬師寺成子・山田三枝子・葦本瑛子
山本徳治郎・山口富喜・矢島 正
山住美津子・山川昌一・屋代英也
八代政文・山極幸雄・山崎婦さ子
矢高レイ子・山田琴子・山中さだ
谷幡祥子・矢野春雄・湯川玲子
良田 圭子・吉田実子・横山正子
吉田 栄子・吉田喜一郎・吉松 博
吉井 明・米沢マチ・吉見 梓
横山ちとせ・柴満礼子・龍 紀子
若杉隆三・渡辺古都江・渡辺 喬
和田俊洋
森医院募金箱・三共株式会社
福神株式会社・東京田辺製薬(株)
しえん塾・川島医院募金箱
倉島医院募金箱

お知らせ

☆昭和五十六年度の募金総額は七、八八八、八一〇円。
御寄附いただいた方の延人数は八五二名でございます。
なお、他にチャリティバザールへの御寄附(後援会のみ)と
して二二七、〇〇〇円ございました。
☆皆様よりの御要望で、今回より三菱銀行の振込用紙を同封い
たします。従来通り郵便振替用紙もございますので御都合の
よろしい方を御使用くださいませ。
☆気候不順の折、皆様御自愛くださいませ、今後とも変らぬ
御支援を御願い申し上げます。